

研究課題名	炎症性腸疾患の手術症例における臨床的特徴と炎症・創傷治癒関連分子の検討
研究の意義・目的	潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の治療については、近年新規の生物学的製剤が使用可能となり、内科治療の幅が増えましたが、これら数種類ある生物学的製剤の選択についての基準はなく、臨床経験を元に治療薬の選択を行っているのが現状です。また、内科的な治療の効果が乏しかったり、狭窄をきたしたために、手術を要する症例は多く、若年での発症が多い炎症性腸疾患においては、手術の原因となる病態の解明や、内科的治療の選択方法を探索することは、喫緊の課題であると考えています。そこで本研究では、手術に至った症例の切除した腸管の一部から、炎症や創傷治癒・線維化に関係する因子の発現と、臨床経過や使用薬剤との関連を調べることで、炎症性腸疾患の病態の解明、新規治療薬の開発、内科的な治療の選択や、手術が必要となる原因などを明らかにしていくことを目的としています。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2028年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2001年1月～2025年3月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で、潰瘍性大腸炎とクローン病で通院治療されている患者様で、同病院の消化器外科で外科手術を行われた方が対象となります。また、2001年1月～2025年3月に、同病院の消化器外科で、大腸癌の外科手術を受けた患者様が対象です。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	患者様の診療記録(年齢、性別、診断名、薬剤使用歴、発症年齢、罹病期間、炎症性腸疾患治療期間、内視鏡検査、CT検査、MRI検査、病理組織検査などの項目)を使用させていただきます。また、手術の時に切除した腸管の一部(病理検査に提出して診断を行った部分以外に余った部分)を使用させていただきます。手術検体については、大腸癌における免疫微小環境に関する研究(倫理委員会承認番号3853)に基づいて、大阪公立大学医学部附属病院の消化器外科にて凍結保存したものと病理診断に用いたホルマリン固定後にパラフィンで包埋したものから、診療記録を参考に選別された症例について、同病院の消化器内科・医化学へ譲渡していただき、使用させていただきます。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科学と医化学とで行い、他の施設に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科学と医化学とで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 細見周平
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 (担当者氏名) 細見 周平 電話番号:(06) 6645-3811

	メールアドレス：shuhosomi@omu.ac.jp
--	-----------------------------